

石川県立輪島高等学校

学級数：9学級 生徒数：304人

【テーマ】

がん検診の重要性について理解し、自分や身近な人の健康について考える。

1 はじめに

本校では、保健体育科を中心にがん教育を実践してきた。日本人にとってがんは2人に1人が罹患するという身近な病気である。また、がん検診を受診することにより早期発見・早期治療につながり、9割のがんが治ることがわかっている。日本ではがん対策推進基本計画において検診率60%以上の達成が目標の1つに掲げられているが、40%にとどまっている現状がある。このことから、がん検診率の低さを知るとともに検診の重要性について考えることを目標に授業を計画した。

今回、がん教育を行うことで、がんについて考えるきっかけをつくり、関心を持つことができるように本校での実践を進めた。

2 実践

(1) 保健における基礎知識の定着

全体で4時間構成とし、1時間目に生活習慣病の発生原因とその予防方法について学習した。2時間目に外部講師を招いて授業を行い、がん検診受診の重要性について理解させた。自分の住む地域である能登北部のがん検診受診率の低さに着目させ、家族や身近な人の健康を守るために何ができるかを考えられるよう計画した。3時間目には「がんの治療と回復」について学習した。4時間目は生活習慣病と予防のまとめとした。

(2) がん経験者とのT・Tによる授業

がん経験者のお話を通してがん検診受診の重要性を知ることから始めた。日本のがん検診率が40%にとどまっていることや輪島市

を含む能登北部のがん受診率の低さを知り、問題として捉えることができるようにした。その後、輪島市のがん受診率を向上させるためにどのような取り組みを行うことができるかグループに分かれて考えた。生徒からは「自分の親や周りの人のがん検診のことについて話したり、検診に行った人に特典をあげる」などという意見がでた。まとめとしてがん受診率を向上させるために「高校生の自分ができること」・「この先意識していきたいこと」を一人ひとりが考えることで、身の回りの家族や周りの人とがんについて考えるきっかけとなった。



外部講師：萌の会 代表 和田 真由美 氏

(3) 生徒の感想

- ・がん検診の大切さが改めて分かった。治る可能性があるのに検診を受けないのはもったいないし、自分の体に関わるから自分だけじゃなくて、身内や周りの人にすすめてほしいと思った。正しい情報を周りにできるだけたくさん広めていきたい。
- ・石川県の中でも特に輪島などの能登北部地

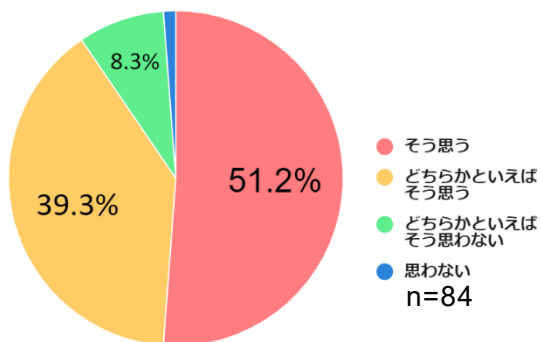
域の検診率が低いことを知り、がん検診の必要性をもっと多くの人に伝えるべきだと思った。自分も将来受けられる年齢になったら積極的に検診を受けたいと強く思った。

- ・私の家は家族全員がしっかりと検診に行っているの、これからもすすめようと思いました。
- ・行かないといけないとわかっていても行かない時もあるので受診することを習慣にすることが大事だとわかった。

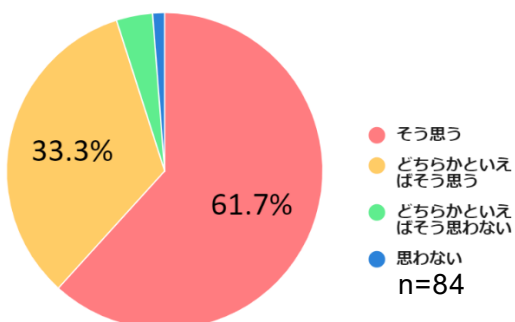
3 生徒アンケートの結果

・がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。
【そう思う 51.2%→61.7%】

【実施前】



【実施後】



・がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う
【そう思う 48.8%→68.3%】

授業前後のアンケートからがん検診受診の重要性を理解し、実際に検診を受けられる年齢

になると受けに行こうと考える生徒が増えた。また、授業を通してがんに関して身近な家族や周りの人と話してみようとする人の割合が増えた。このことより今回の授業をきっかけとしてがんについて考える機会となったのではないかと考える。

4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

- ・専門的な知識を持っている外部講師と連携して授業を行うことにより教員及び生徒のがんに対する知識の定着を図ることができた。
- ・生徒はがん検診の重要性について理解した上で、グループワークでは輪島市のがん検診受診率を向上させるためにどのような取り組みができるのかについて考えることができた。
- ・今回の授業を行うにあたって、養護教諭や図書館司書の方と連携して保健だよりや図書館にがんに関する書籍を集めた特設コーナーを作るなど、学校内でがん教育について考えるきっかけを作ることができた。
- ・がん経験者の体験談には「リアリティ」があり、想像していた以上に生徒の学びへとつながった。

◆◆課題◆◆

- ・今後学校現場でがん教育を推進していくにあたり、外部講師との連携を学校単位で行うことはかなりの労力が必要となり、外部講師とのやり取りを行うことや情報を得る方法などは今後の大きな課題となるのではないかと感じた。しかし、この課題を解決しなければ今回の活動が単発的なものとなり、継続性が失われてしまうのはもったいないと感じた。
- ・学校教育全体を通して継続的にがん教育や自らの健康について考える機会を設ける必要がある。